

天候不順に負けない苗づくりを

いよいよ米づくり本番!

お米づくりは毎年が一年生、天候に合わせてGO!

生産者通信

NPO法人
米ニケーションセンター
定価 100円(送料込)

いよいよ米作りの本番がやってきました。今年の春は早いのかと思つていましたが、なかなか気温が上がらず、冷たい雨が続いて桜の開花予想も狂つて、県内の花見会場では気を揉んでいた所も多かったようです。それにも関わらず、2月から3月にかけてなんと様々な行事が続くのでしょうか。各団体の総会や研修会、町内会や農家組合の総会や春祭り等々次から次へと案内が舞い込み、日程が重なったりして総てにお付き合いすることはできず、失礼をさせていたたくとも少なくありません。

また、春は入学・卒業、入社・転勤、そして定年退職というような人生の節目を迎える人も多く、身の回りにもそうした人が結構おられることと思います。

さまざまなお付き合いの間を縫って育苗の準備に取りかかりましたが、これまたビニール資材がネズミにやられて資材の手当てが

つくまで作業を中断せざるを得ない等、予定通りには作業は思い通りにはかどりません。勤めをしながら同じ事をやり通せたことに自分ながら感心すると共に、大規模農家の皆さんの作業量と作業密度に改めて敬意を表したいと思つています。

今年もJAの委託苗3千枚を引き受けましたが、4月22日に芽出し苗が入つて、5月10日の出荷の計画です。18日間の管理で、2・5葉、12・13葉の「商品」に仕上げなければならなりません。幸いにして20年余り失敗せずに「商品化」してはいますが、管理の基本にしてきたのは「過保護にしないだけ」です。通常、緑化後はできるだけ朝早くハウスの裾を開けて夕方遅くまでそのままにしておくようにしています。中期以降は朝昼2回、十分に散水して水不足による葉巻きを起こさないようにします。余りにも簡単なことですが、それをやり通せたかどうかで結果はまったく違つたものになります。

自家用の苗は、有機コシヒカリは露地の無加温のプールで、それ以外はハウス内のプールで育苗しています。昨年の露地育苗は失敗しました。プールに水を入



れる前のワリフだけの被服の時期の夜間の低温があり成長が一時停滞してしまつたのです。入水までの期間放射冷却の起きるような夜はビニールシート等の保温が必要だったようです。その後日数はかかりましたが回復し、3・5葉で田植えが出来ましたが良い経験でした。

実は昨年、耕運でも失敗をしてしまつています。耕運という極めて単純な作業で失敗するのは不思議に思われるかも知れませんが、荒代と仕上げ代の2回の代掻きをおこないますので、出来るだけ荒く耕運しました。ところが2回の代掻きをして、前年の稲株が砕けずにそのままごろごろと残つてしまつたのです。古株の上に植えられた稲は浮き苗や転び苗になつて、植え付け精度が落ちてしまいました。我が家の水田土壌の



特殊性がもしもありませんが、今年はロータリーの回転数を上げて耕運の時に出来るだけ古株を砕くようにしようと思つています。

それにしても今年は雨ばかりで田が乾いてくれません。暗渠もあり、昨年のうちに排水溝も切つてあるのですが効果がなれません。中途半端な乾き具合の田にホイールのトラクターで入れれば田の中で遭難してしまます。セミクローラーのトラクターでさえはまつてしまつた年がある位ですから。自分の都合を優先せずに天候に合わせていくことにします。

判読が難しい航海図のまま、今年の稲作は出航せざるを得ないようです。また中央政界も大時化にまで発展してしまつたのかどうか、参議院選挙まで眼が放せません。

(内山常蔵記)

らでいっしゅぼーや [品質管理だより]より抜粋

加工品クレーム 昨年対比91.7%

クレーム自体は昨年より減ってはいますが、表示内容や量目不足のクレームは増加しています。

異物は混入しない！
表示の間違ひは法律違反！
クレーム“0”に！

農機のメンテしてますか??

異物混入ゼロを目指し、らでいっしゅぼーや(株)上甲氏を迎え、岩田氏より「色選」「籾摺り」「乾燥機」のメンテナンスについて実習しました。いいお米を育てても調製不調ではクレームになります。正しい機械の使い方・メンテを学びましょう。



Agri-s の



農機メンテの部屋

Vol.6

肌寒かった3月も終わり、平場では既に水稲の種まきが始まり、畦塗りも始まっています。また、山間部の雪も少なくなり水田の土が見えてきているようですが、昨年、いもち病と未熟で収穫が前年の四割程度しかなかった(原因は晩植と6月末に続いた雨による?)標高3百メートルの圃場を見てきましたが、日陰の道路、圃場と共に残雪が60センチあり、5月にならぬと消えない様子です。

ある最近のトラクターの作業機の取り付けは、ほとんどがクイックヒッチによる取り付けになっていますが、各メーカーの特殊3Pオートヒッチにおいての共通性はありませぬ。但し、日農工規格においては、各メーカーにおいて共通性が保たれています。詳しく述べると、トラクターに作業機を設置するときは、3点支持装置(3点リンク)で取付けます。これには2種類あり、日本工業規格(INS)で定められた標準3点リンクと、日本独自の3点リンク(いわゆる特殊3点リンク)があります。標準3点リンクは世界的にも互換性があり共通で使えます。

共通で互換性のある『統一規格』の要望が提起され、「日農工」では、「作業機部会」と「トラクター部会」と合同で『統一規格』化を図りました。『統一規格』の中でいう標準オートヒッチ・特殊オートヒッチとは、トラクターにオートヒッチフレーム(カプラ)を取り付け、作業機と連結するものをいいます。しかし、PTOジョイントと作業機の連結の方法は規定されていませんでした。現在はジョイントを同時に深さオートセンサーも連結するタイプも多数あります。標準オートヒッチには中型トラクター用に「日農工0・1形兼用(通称S型カプラ)」と大型トラクター用に「1・2形兼用(通称L型カプラ)」があります。特殊オートヒッチには「



写真

表	A - 1	A - 2	B
クボタ	小型		
ヤンマー			芝浦
イセキ			
三菱	小型		
日立・ホンダ	小型		

トはSET位置切替機)の両方の規格で装着できます。(但し、深さオート)の装着は各メーカー規格に依存するため除く。)ここで問題になるものはオートヒッチフレーム(カプラ)の接続部の強度容量です。大量の作業機の装着でフレームの接続部の強度容量が不足すると脱着時に接続部の破損が発生します。注意しなければなりません。ちなみに強度容量は「通称Lカプラ」、「通称Sカプラ」、「特殊オートヒッチ」の順で強度は下がります。



写真

写真は、大型の機械で無理な脱着を行った作業機のヒッチブラケットの亀裂及び変形です。亀裂は修復可能と思えましたがプレート自体が大きくなり歪んで作業機の脱着がスムーズにいかない為交換しました。



写真

ロータリー及びドライブシャフトの点検使用説明書に基づいてオイル交換は行っているでしょうか、メーカーでは3百5百時間位で推奨しているのだから従って交換してください。また、爪の点検で刃先が1/3以上摩耗したら交換したほうが賢明です。耕運精度、燃費にかなり差がでます。(写真)ドライブシャフトのレーキの留めピンの摩耗がある場合はピンの交換が必要です。怠ると、最悪レーキの脱落が発生します。(写真)また、メンテを行ってきた作業機もオイルシールの劣化でオイル漏れがあれば、オイルシールの交換が必要です。特にJAS有機認証の検査では機械からのオイル漏れによる圃場の汚染の有無についてもチェックがあると思いますので注意が必要です。

Agri-s 記